

科目名	人体の機能Ⅱ		科目ナンバリング	N-FN HB 1-03. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N20005	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	宇田 宗弘				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	〔授業の主旨〕 看護ケアは症状（痛い、苦しいなど患者自身が自覚するもの）や徴候（客観的に他人が観察できるもの）、検査結果などの情報に基づいて行われます。症状（症状と徴候）は人体の正常な機能や形態が破綻したときにあらわれます。したがって、人体の正常な機能や形態についての十分な知識を身につけることは、症状を理解するためや、さらには各患者への適切な看護ケアを考えるためにも必要不可欠です。人体の機能Ⅱでは生命を活用する動物機能、人体を保護して種を保存する機能を理解するとともに、それらの機能が破綻した状態（病態生理）を学習します。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連する。カリキュラムポリシーの2-1, 3-2, 5-1に関連している。									
	到達目標	1. 身体機能の防御と適応、内臓機能の調節、情報の受容と処理、生殖・発生と老化のしくみ、身体の支持と運動についての基本的な機能を理解し、説明することができる。 2. 人体の正常な機能や形態が破綻することにより生じる症状を理解し、なぜそのような症状があらわれるのかを生理学の専門用語を用いて、臨床で活用可能な知識として説明することができる。								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	授業の進め方の説明。			授業の進め方の説明。特にチーム基盤型学習（グループワーク）と、評価方法（確認テスト、ピア評価、レポート、定期テスト）と、レポートの書き方などの説明。				講義		
第2回	身体機能の防御と適応、およびその異常			免疫のしくみ				グループワーク		
第3回	身体機能の防御と適応、およびその異常			代謝、運動とエネルギー熱の出納、体温の分布と測定、体温調節、発熱、高体温と低体温				講義		
第4回	内臓機能の調節、およびその異常			視床下部一下垂体、甲状腺と副甲状腺、膵臓、副腎、性腺、内分泌系の病態生理				講義		
第5回	内臓機能の調節、およびその異常			内分泌系・代謝の病態生理				グループワーク （反転学習、TBL）		
第6回	内臓機能の調節、およびその異常			視床下部一下垂体、甲状腺と副甲状腺、膵臓、副腎、性腺、内分泌系の病態生理				講義		
第7回	内臓機能の調節、およびその異常			視床下部一下垂体、甲状腺と副甲状腺、膵臓、副腎、性腺、内分泌系の病態生理				講義、レポート提出		
第8回	情報の受容と処理、およびその異常			脳・脊髄の構造と機能、脊髄神経と脳神経の機能				講義		
第9回	情報の受容と処理、およびその異常			脳・神経系の病態生理				グループワーク （反転学習、TBL）		
第10回	情報の受容と処理、およびその異常			脳波と睡眠、記憶、本能行動と情動行動、中枢神経系の障害				講義		
第11回	情報の受容と処理、およびその異常			末梢神経、反射、自律神経系				講義、レポート提出		
第12回	情報の受容と処理、およびその異常			聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚、痛みの分類、疼痛の発生機序、感覚器の病態生理				講義		
第13回	身体の支持と運動、およびその異常			骨の発生と成長、骨の生理的な機能、骨格筋の作用、骨格筋の神経支配、上肢の運動、下肢の運動、骨格筋の収縮機構、筋骨格系の病態生理				講義		
第14回	生殖・発生と老化のしくみ、およびその異常			生殖機能、生殖細胞と受精、初期発生と着床、胎児と胎盤				講義		
第15回	生殖・発生と老化のしくみ、およびその異常			生殖細胞と受精、初期発生と着床、胎児と胎盤、小児期の成長、老化				講義		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、グループワークへの貢献度（10%、10点（個人及びチームによる準備確認テストの点数とピア評価を含む））、チーム基盤型学習（グループワーク）の内容に関するレポート（30%、30点）、定期テスト（60%、60点）の合計100%（100点）として、60%（60点）以上を合格とします。グループワークに関するレポートは、ルーブリックを用いて評価します。									
課題等	チーム基盤型学習（グループワーク）で学習する内容については必ず事前に調べておくこと。調べる際には教科書だけでなく図書館を利用すること。授業には参考文献のコピーなどの資料を準備して臨むこと。レポートはコメントを付けて返却します。一定の点数以下のレポートは書き直して再提出を求めます。									
事前事後学修	事前事後学修（予習と復習）は各1時間程度行ってください。また各学習項目に対応する「ここだけ見れば〇〇がわかる！」を読み、さらに本文の該当ページにも目を通して、学修領域を把握し、図表への理解を深めておくこと。チーム基盤型学習（グループワーク）で学習する内容は事前に提示しますので、事前に調べ、授業に参加してください。復習では、学習した内容をもとに「臨床場面で考えてみよう」をまとめ、また「解剖生理学が臨床につながる！」を読むことで臨床とのつながりを学び理解を深めること。さらに学習到達度チェックを行うこと。									
教材教科書参考書	教科書：ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①、解剖生理学（第5版）、武田裕子・林正健二 編、MCメディカ出版、ISBN 978-4-8404-7831-1（必ず購入してください。） 参考書（購入する必要はありません）：①系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①、医学書院、②なるほどなっとく！解剖生理学 改定2版、南山堂、多久和 典子、多久和 陽 著、③病気がみえるシリーズ、看護がみえるシリーズ（メディックメディア）など。									
留意点	レポートは必ず各自が書くこと。レポートの評価については授業内で説明します。またMicrosoft Teamsを使用しますので、オンライン授業の準備をしておいてください。									